
千葉県生涯大学校マスタープラン

千葉県健康福祉部

高齢者福祉課

平成 24 年 3 月

■ 目 次

I.	マスタープランの策定に当たって	1
1.	マスタープラン策定の趣旨	1
2.	マスタープランの性格と位置付け	1
3.	マスタープランの期間	2
4.	マスタープランの運用	2
II.	生涯大学校のあり方と改革の方向	3
1.	生涯大学校の存在意義と果たすべき役割	3
(1)	自発的な“生きがい・健康・仲間づくり”を支援	3
(2)	地域活動の担い手の育成	4
(3)	市町村等と連携・役割分担した学習・活動の場の創出	5
2.	支援の対象となる高齢者	6
(1)	地域活動に興味のある高齢者	6
(2)	地域で積極的に活動する意欲のある高齢者	6
3.	学習の柱	7
(1)	地域活動に役立つ知識と技能の習得	7
(2)	地域活動を実践的に学ぶ体験学習	7
(3)	仲間とともに活動するノウハウの習得	9
4.	設置内容の見直し	10
(1)	課程の見直しと修業年限の短縮	10
(2)	定員の再編成と東葛飾学園の統合	13
(3)	学部別等の授業料の設定	14
(4)	入学希望者の意向確認の導入	15
(5)	入学年齢の引き下げ	16
5.	運営体制の強化	17
(1)	卒業生の組織化とコーディネーターの配置	17
(2)	市町村等との連携強化	18
(3)	大学等教育機関との連携	19
(4)	資格取得の支援	21
(5)	地域との交流	23
(6)	改革効果の検証・評価	24
(7)	その他運営体制の強化	25
(8)	カリキュラムの概要	28

I. マスタープランの策定に当たって

1. マスタープラン策定の趣旨

千葉県生涯大学校は、昭和50年の開校以来37年にわたり、高齢者等の生きがづくり、仲間づくりの場として先導的な役割を果たしており、平成23年現在、約3,500人が学んでいます。

この間、平均寿命の延伸により高齢者数が大幅に増加し、高齢化が急速に進行するとともに、高齢者自身の価値観やニーズ、行動様式も多様化するなど、状況は大きく変化しています。

また、市町村や民間のカルチャーセンターにおいても、各種講座やセミナー等の生涯学習機会が多数提供されているほか、NPO等による学習機会の提供も活発化するなど、生涯学習をめぐる環境も変化しています。

このような中、千葉県生涯大学校においても、果たすべき役割や求められるニーズが変化しており、学校自体の運営目的や学習内容の見直しを図る必要性が生じています。

本「千葉県生涯大学校マスタープラン」は、生涯大学校の果たすべき役割を明確にし、運営内容を見直すなど、改革の方向性を明示することで、生涯大学校が県内の高齢者等にとってさらに有意義な学びと実践の場として位置付けられ、地域活動に参加することによる生きがいの高揚につながることを目指しています。

2. マスタープランの性格と位置付け




千葉県生涯大学校マスタープランは、生涯大学校の目指すべき姿、現状と課題、カリキュラム、連携方法、改革事項など、今後の運営に当たって必要とされる項目について網羅した内容となっています。

生涯大学校は条例で設置が定められた施設ですが、その運営に関しては、規則を除き、マスタープランを最上位計画として位置付けるものとします。

3. マスタープランの期間

千葉県生涯大学校マスタープランの計画期間は、平成24年度を初年度とした5年間とします。

◆マスタープランの推進（目安）

	平成24年	25年	26年	27年	28年
役割の明確化					
基本的学習内容の設定					
個別項目見直し					

4. マスタープランの運用

マスタープランに基づく学校運営については、平成24年度に指定管理者の選定を行い、平成25年度に入学する学生から適用になります。

本プランの計画期間終了後に、改革の実施状況及びその成果を検証することとします。このため、3年又は5年を目処に、各地域（市町村）における生涯大学校卒業生の活用状況等を調査し、県内各地域の地域事情を踏まえた上、見直しを進めます。

II. 生涯大学校のあり方と改革の方向

1. 生涯大学校の存在意義と果たすべき役割

(1) 自発的な“生きがい・健康・仲間づくり”を支援

【現状と課題】

長寿化に伴い、心身ともに健康な高齢期を過ごすことへの関心が高まっています。

また、価値観の多様化とともに「生きがい」に対する考え方も多様化し、趣味や健康づくり活動に加え、「人の役に立ちたい」といったボランティア活動等に生きがいを求める高齢者等が増加傾向にあります。

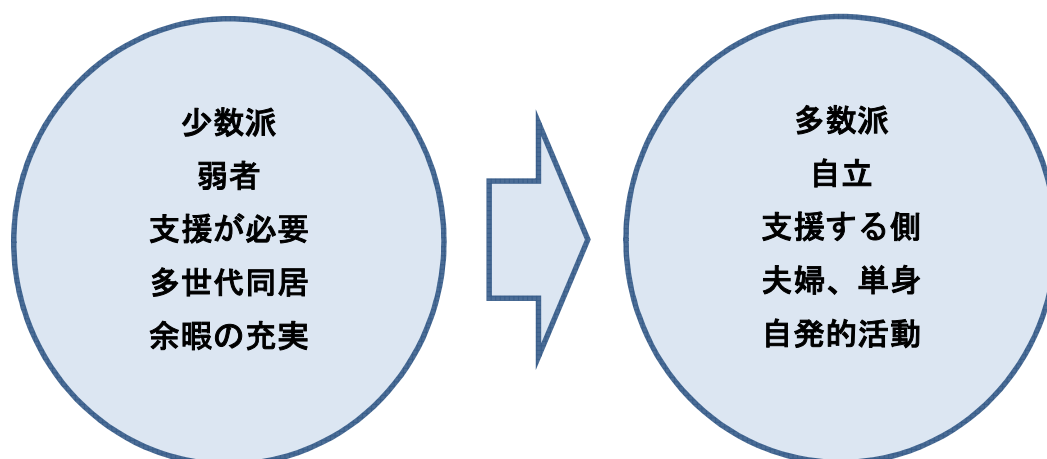
生涯大学校においても、このような「生きがい」に対する価値観の変化に対応した学習の場を提供することが求められています。

生きがいのある暮らしの基礎となる「健康づくり」にも、継続して取り組む必要があります。ともに学び活動する仲間を得ることは、地域活動への参加意欲を高め、健康の維持・増進という効果も期待できます。

【今後の方向性】

これらを踏まえ、生涯大学校の果たすべき役割として、時代の変化や高齢者等の価値観の多様化に対応した「生きがい・健康・仲間づくり」の場と機会の提供を明確に掲げ、学校運営を行っていくこととします。

<高齢者像の変化>



(2) 地域活動の担い手の育成

【現状と課題】

団塊の世代が定年を迎えて地域に戻り、65歳に達する時期を迎えています。様々な会社や組織で長年培った多様な経験と知識を地域活動に生かすことが、豊かな地域社会の実現に向けた課題となっています。

今後、高齢化の更なる進行が見込まれる中で、高齢者は「支えられる側」としてだけではなく、「支える側」として活躍することがより一層求められています。特に、都市部を中心として、高齢者のみの世帯（独居・夫婦）が増加し、日常生活における「支え合い」はとても重要となっています。

【今後の方向性】

このような状況を踏まえ、生涯大学校は高齢者等の多様な知識や経験、ノウハウ、技術などを地域づくりや地域経済の活性化に生かせるような学習の場と機会を提供し、地域活動の担い手を育成していきます。これは地域の活性化に加え、高齢者自身の生きがいや健康づくりにもつながります。

<地域活動で期待される人材例>

活動概要	想定される人材
高齢者の日常生活支援	ふれあいサロンや見守り活動など、地域に根ざし、在宅援護を必要とする高齢者に対する積極的な支援活動を行う人材
景観整備・樹木等の管理	公園や学校、市街地等の樹木の剪定や花壇の整備など、街の景観整備を行う技術を有し、率先して活躍できる人材
介護・福祉施設、老人ホーム等でのボランティア	介護・福祉施設や老人ホームの高齢者を対象に、話を聴いたり、歌を聴かせたりするほか、施設の清掃等を行う団体をコーディネートできる人材
学校等での学習活動の支援	小中学校や公民館などの学習の場において、子どもたちに対して、地域の文化や伝統芸能、歴史などを伝え、地域文化の保存に努める人材

民生委員・児童委員や自治会役員	民生委員として、市町村の福祉事務所等と連携して地域福祉を推進し、あるいは自治会の役員として、自治会の活動を牽引するリーダー的な人材
地域の活性化等	地域独自の祭りや催事の企画、運営あるいは観光ボランティアガイド等を行い、地域の活性化を図るプロデューサーとして活躍できる人材

(3) 市町村等と連携・役割分担した学習・活動の場の創出

【現状と課題】

生涯学習については、生涯大学校が発足した当時とは異なり、今では多くの市町村の公民館活動等において学習の場と機会が設けられています。また、それらを発展させ、市民大学のような形態で展開している市町村も複数みられます。

市町村における生涯学習は、年齢や性別を問わず受講できますが、講座開催が平日の日中に多いことから、参加者の多くが高齢者となっています。こうしたことから、制度や仕組みは異なるものの、「高齢者の生涯学習の場」という点においては、生涯大学校と同様な状況となっています。

「地域活動の担い手育成」が課題となっていますが、生涯学習施策において、そのためのカリキュラムを展開している市町村は少数です。多くは余暇の充実や健康づくりを目的とした講座を設けるにとどまっているのが現状です。

【今後の方向性】

このような状況を踏まえ、生涯大学校では、「地域活動の担い手の育成」に重点を置き、高度で実践的な学習内容とすることで、市町村との役割分担を図ります。

併せて、学んだことを地域で生かす場と機会の創出においては、市町村と情報交換をする仕組みづくりを行うことで連携強化を図り、より効果的な学習・活動の場を提供していきます。

2. 支援の対象となる高齢者

(1) 地域活動に興味のある高齢者

【現状と課題】

本県は高度成長期に人口が大幅に増加したため、団塊の世代の割合が高く、様々な知識と経験を有する人材が豊富であり、「地域活動の担い手の育成」という点では恵まれた地域といえます。

しかし、このような人たちが、地域活動等において知識や経験を生かしたいと思っても、情報不足やきっかけがつかめないなどの理由から、実現できずにいる人も多くみられます。

【今後の方向性】

生涯大学校では、このように貴重な人材が、容易に地域に溶け込み、知識と経験を十分に生かして活動するためのカリキュラムを整え、生きがいを持って健康で元気に活動できるよう支援していきます。

(2) 地域で積極的に活動する意欲のある高齢者

【現状と課題】

多くの市町村で生涯学習の場が充実している現在、生涯大学校に求められることは、より「専門的」で「実践的」な学習機会の提供です。

【今後の方向性】

生涯大学校では、地域課題を自ら発見し、課題解決のための具体的な活動を企画・実践できる学習の場を提供し、これまで地域活動に参加した経験のない高齢者等に加えて、地域活動を既に実践している高齢者等の学習の場としても機能させていきます。

また、地域の一員として地域活動に参加するだけでなく、地域の人々と協力しながら、より効果的で幅広い活動に発展させるリーダーの養成も視野に入れていきます。

3. 学習の柱

(1) 地域活動に役立つ知識と技能の習得

【現状と課題】

生涯大学校へ入学する高齢者等は、地域活動の経験が少ない人が大半を占めています。地域活動への参加について、生涯大学校の卒業生からは、「学校へ通い、学習していくうちに自然と地域活動への意欲が湧き、卒業後に活動を始めた」という声が多数聞かれています。

生涯大学校の設置目的を、条例では「高齢者自らが社会的活動に参加することによる生きがいの高揚に資すること」と掲げていますが、ここでいう「社会的活動」を「地域活動」と捉え、「学んだことを地域に生かす」という視点を従来よりも強化することが求められています。

【今後の方向性】

このような状況を踏まえ、全ての学生が地域活動に役立つ学習を行うようにカリキュラムを見直します。併せて、地域活動に高いモチベーションを持つ学生が、卒業後すぐに活動を実践できるような知識や技能も習得できるようにします。

(2) 地域活動を実践的に学ぶ体験学習

【現状と課題】

地域活動に興味を持つ学生の多くは、実際の活動の場で経験したいというニーズを持っています。地域活動を実際に経験することは、地域活動を身近に感じ、参加意欲を高めるだけでなく、自分でも地域活動ができるという自信につながります。

【今後の方向性】

生涯大学校では、学習課程において「地域活動の体験」を学習の柱に位置付け、市町村の生涯学習との役割分担を図ります。併せて、実践的な学習を多く取り入れ、カリキュラム全体を充実させることで、全ての学生がより多く地域活動を経験できるようにします。

ボランティアなどの地域活動を、講座の中に年間を通じて継続的に組み入れたり、現在活動している団体のリーダーを講師に招くなど、地域活動のスキルやノウハウを養成する講座を組み入れます。さらに、地域活動をマネジメントできるリーダーの養成に資する講座も取り入れます。

《講座の例》

講座名	講座概要	目的・効果
地域活動リーダー養成講座	自ら地域課題を発見し、その解決に向けた地域活動を実践できるリーダーを養成するため、座学と実践を交えた講座を展開する。	ボランティアや地域活性化等の実践者の指導の下、リーダー資質の育成講座を展開したり、ボランティア活動などの実践を通じて、地域活動のリーダーを養成する。
地域文化学習講座	千葉県内の歴史や文化、伝統行事、遺跡等についてフィールドワークを中心に学び、それらを来訪者あるいは後世へ伝えていく人材を養成する。	地域固有の歴史や文化等を後世へ伝承できる人材及び地域の魅力を発信する観光ガイド等の人材を養成し、地域全体の活性化につなげる。
まちづくり実践講座	地域特性や課題に応じたまちづくりを進めるための、専門的知識を備えた人材を育成する。	花の植え付けや清掃などのボランティア活動に加え、商店街活性化やタウンマネジメントの能力を養成し、まちを元気にすることを目標とする。
子ども・子育て支援講座	スクールボランティア（学習補助）など支援を必要とする組織・団体で実際に活動してノウハウを学ぶ。	歌や読み聞かせ、身近な材料での化学実験など、自身の持つ知識やノウハウ、技術を活用し、地域教育の発展につなげる。
NPOに関する学習講座	NPOの意義や重要性、立ち上げ方法に加え、活動を実践・継続できる人材を養成する。	NPO活動等の市民公益活動への理解を深め、まちづくりの実践に向けた意識の高揚と行動を促す。
イベント企画・開催講座	陶芸や園芸など、趣味や特技を生かして地域イベントを企画し、開催するノウハウを学ぶ。	趣味や特技を生かしたイベント等の地域活動の自主的な開催を促し、地域の活性化を図る。

(3) 仲間とともに活動するノウハウの習得

【現状と課題】

地域社会において、各種団体や組織に属して地域活動を行った経験のない（少ない）高齢者等は、いざ活動をしようと思っても、うまく地域に溶け込めないことが少なくありません。特に、企業という地域と離れた組織で長く働いていた高齢者等は、こうした傾向が強くみられます。自発的な善意に基づく地域活動も一人ではできません。

【今後の方向性】

生涯大学校では、グループワークによる授業形態を重視し、仲間と議論し、協力して活動するノウハウを身に付けます。また、市町村を超えた広域的な仲間づくりをきっかけとして、卒業後の地域活動の場も広範囲に広げることが可能となります。

4. 設置内容の見直し

(1) 課程の見直しと修業年限の短縮

- ◆ 一般課程と専攻課程を統合し、2学部1専攻科に再編、通信課程を廃止する
- ◆ 学部には地域活動学部、造形学部を設置、専攻科には地域活動専攻科を設置する
- ◆ 修業年限を以下のとおりとする
 - 地域活動学部：2年間
 - 造形学部・地域活動専攻科：1年間

① 地域活動学部

【今後の方向性】

福祉施設や学校等でのボランティア活動、自治会活動等の地域活動の担い手を養成します。

卒業後の活動が円滑に行えるよう、学生同士及び様々な団体等とのネットワークを構築するとともに、地域活動に関する実践的なカリキュラムを実施します。

2年次から、学生の希望に応じたコースに分かれ、自ら課題を設定し、実践するなど、主体的な学習を展開します。

地域活動を行うためには、学生間・様々な団体等との十分なネットワークを構築する必要があることから、地域活動学部の修業年限を2年とします。

② 造形学部

【現状と課題】

カルチャーセンター等を含む教育、学習支援業の事業所数をみると、東葛飾地域や千葉地域に67%の事業所が集中し、民間の学習の場がほとんどない地域もあり、県内全域に等しく学習の場があるとは言えない状況です。

市町村が提供する高齢者向けの学習機会も、都市部においては趣味や仲間づくりの講座が多数展開されている一方、その他の地域においては高齢者福祉施策関係の講座が中心となるなど、地域により内容が大きく異なっています。

《その他の教育、学習支援業の事業所数》

地域名	千葉	東葛	安房	夷隅	君津	長生	山武	印旛	香取	海匝	合計
事業所数	1,641	2,849	208	87	342	157	203	764	136	242	6,629
構成比(%)	24.8	43.0	3.1	1.3	5.2	2.4	3.1	11.5	2.1	3.7	100.0

出所：平成21年経済センサス基礎調査(総務省)

このような地域差から、都市部では「様々な学習機関がある中で生涯大学校を選択する価値」といった「差別化」が求められる一方、その他の地域では「取り組みやすい学習テーマ」や「家業と両立できる学習の場」といった、本来、市町村や民間が担うべき役割も求められるなど、生涯大学校に対するニーズは地域により大きく異なっています。

また、生涯大学校へ通う学生の学習意欲は、生きがいの高揚と健康の維持増進に支えられています。陶芸や園芸は高齢者等に人気があり、応募倍率も高くなっています。学生にとってカリキュラム・講座に魅力がなければ、学習意欲の減退から学生数は減少し、ひいては地域活動の停滞にもつながりかねません。

【今後の方向性】

このような状況を踏まえ、造形学部では、自らの能力を生かし、創造的に生きていくための学習機会を提供するとともに、地域活動に参加できる人材を養成します。

「園芸科」と「陶芸科」は「造形学部」の「園芸コース」、「陶芸コース」とし、修業年数を1年に短縮しますが、時間数に応じて技術が向上する陶芸コースについては、学習の質を維持するため、授業時間数を園芸コースの2倍にします。

また、造形学部では、卒業後に地域活動学部へ再入学することを認め、地域活動に対する関心と参加意欲の高い学生を受け入れるようにします。その際、地域活動学部の定員の一部について、優先的に再入学を認めることとします。

③ 地域活動専攻科

【現状と課題】

市町村が生涯大学校に求める声として、「地域活動のリーダーとなる人材の養成」が多くあります。市町村が実施する生涯学習との役割分担を考慮すると、自ら地域課題を発見し、その解決に向けた活動を実践できるリーダーを養成することが生涯大学校に強く求められます。

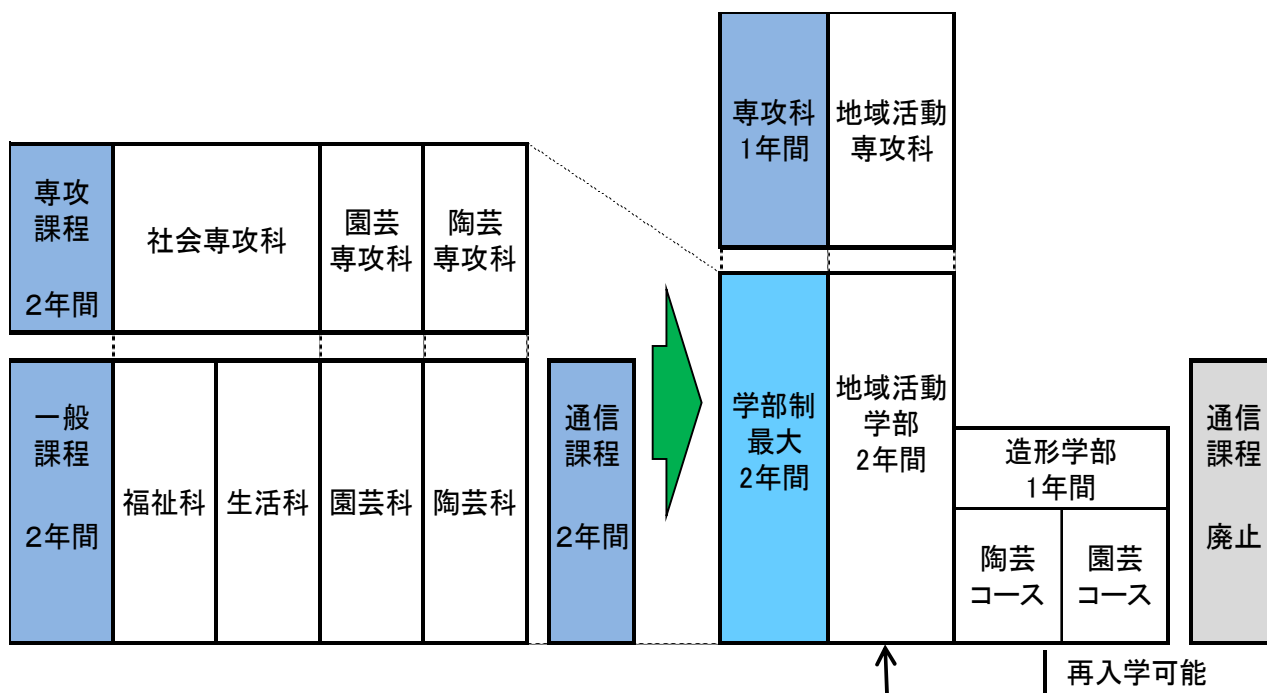
【今後の方向性】

新たに設置する「地域活動専攻科」では、ボランティア活動や地域イベント、講演会等を企画・実践することができ、また、リーダーとして様々な活動を牽引するために必要な知識やノウハウを学習します。

リーダーとして活躍できる人材を養成するという観点から、地域活動専攻科への入学は、地域活動学部で2年間学習した卒業生又は市町村から推薦を受けた者に限定することとします。

設置は京葉学園のみとし、修業年数は1年間とします。

《課程と修業年数の見直し イメージ図》



(2) 定員の再編成と東葛飾学園の統合

《学園ごとの定員一覧表》

学園名	課程	定員 (1学年当り)	学園名	学部	定員 (1学年当り)
京葉学園	一般課程	330	京葉学園	地域活動学部	210
	専攻課程	470		造形学部	285
	通信課程	500		地域活動専攻科	100
東葛飾学園 浅間台校舎	一般課程	240	東葛飾学園 浅間台教室	地域活動学部	100
	専攻課程	50		造形学部	210
東葛飾学園 江戸川台 校舎	一般課程	280	東葛飾学園	地域活動学部	200
	専攻課程	120		造形学部	75
東総学園	一般課程	195	東総学園	地域活動学部	70
	専攻課程	25		造形学部	95
外房学園	一般課程	195	外房学園	地域活動学部	100
	専攻課程	25		造形学部	120
南房学園	一般課程	195	南房学園	地域活動学部	50
	専攻課程	25		造形学部	95
1学年計		2,650	1学年計		1,710
全学年計		5,300	全学年計		2,440

【現状と課題】

現在の生涯大学校は、京葉学園、東葛飾学園、外房学園で定員を超える応募者数がある一方、東総学園、南房学園では定員割れとなっており、特に南房学園では大きく定員割れの状態が続いています。

学科ごとでも応募倍率に大きな差が生じており、陶芸科、園芸科は人気が高く、福祉科は人気が低いという傾向にあります。

【今後の方向性】

現行の定員数は、各学園の教室の数や面積などから、収容可能な人数を試算して設定されています。今般、「専攻課程と一般課程を統合すること」、「課程を見直し学部制を導入すること」、「造形学部は1年制にすること」などを踏まえ、応募状況も勘案する中で、施設の収容能力を最大限に生かすことができるよう、定員を見直すこととします。

東葛飾学園浅間台校舎は、松戸市の施設である松戸市総合福祉会館を借りて設置していますが、今回この運営体制を見直し、浅間台校舎は江戸川台校舎に統合し、浅間台校舎にあった事務局も江戸川台校舎に統合することとします。ただし、浅間台校舎に通学していた学生の利便性を維持するため、浅間台校舎での講座は存続します。名称は、浅間台教室に変更し、東葛飾学園のサテライト教室として運営していくものとします。

(3) 学部別等の授業料の設定

《コースごとの授業料》

課程	年間授業料	学部	コース	年間授業料	1ヶ月当り
一般課程	18,000円	地域活動学部	地域活動コース	15,000円	1,250円
専攻課程	8,000円	造形学部	園芸コース	27,000円	2,250円
通信課程	4,000円		陶芸コース	54,000円	4,500円
地域活動専攻科				15,000円	1,250円

【現状と課題】

生涯大学の授業料は、一律で月額1,500円（年額18,000円）です。園芸科や陶芸科は、民間のカルチャースクールなどと比較した場合、材料費等の実費負担を考慮しても格安な授業料となっています。

一般県民（高齢者等）に対するアンケート調査においては、生涯学習の講座や学校に参加するための費用として1か月に支払ってもよいと考える金額は3,000円以内という回答が最も多く、次に多かったのは5,000円以内であり、それを超える金額の回答も一定数ありました。また、生涯大学の学生及び卒業生に対するアンケート調査においては、授業料について「妥当」と考える割合が、学生で62.8%、卒業生では68.1%、「学習内容に比べて安い」が学生27.2%、卒業生8.6%、「学習内容に比べて高い」が学生2.9%、卒業生8.4%となっています。

【今後の方向性】

今回の見直しでは「地域活動の担い手育成」を主眼としていることから、これに直結する学習内容である「地域活動学部」及び「地域活動専攻科」については、公益的観点から現状より引き下げを行い、月額1,250円（年額15,000円）以内とします。

趣味的な要素が強い「造形学部」については、受益者負担の観点から授業料を引き上げます。具体的には、見直し後の定員、想定される事業経費等を勘案し、園芸コースについては月額2,250円（年額27,000円）以内、陶芸コースについては月額4,500円（年額54,000円）以内とします。

授業料については、今後の事業経費等により引き続き見直しを行っていきます。

（４）入学希望者の意向確認の導入

- ◆ 入学願書の必要的記載事項にレポートを追加（採点は行わない）
- ◆ 卒業後の地域活動の希望などを記載してもらうことで、入学者の地域活動へのモチベーションをアップ

【現状と課題】

現在、生涯大学校への入学希望者は原則、全員入学することが可能であり、定員を超えた場合は抽選により入学者を決定しています。しかしながら、学生の中でも地域活動に積極的な学生もいれば、全く興味がない学生もいるなど、学生間でも地域活動への温度差が広がっています。

【今後の方向性】

今後は「地域活動に対する興味」や「参加意向」について事前に把握し、地域活動への積極的な参加を期待できる学生に学んでもらうことで、より効果的な人材育成を目指します。

具体的には、入学願書に地域活動に関して記述する欄を設け、「これまでの地域活動の実績」や「今後の参加意向」及び「地域活動に対する考え」などを簡潔に記載してもらうこととします。ただし、入学者の選定には用いない

こととしますが、入学後の学習において参考にすることとします。

これにより、入学者の地域活動への意識が高まり、生涯大学校での学習目的の理解促進にもつながる効果が期待できます。また、入学者の地域活動に対する意欲を確認することで、地域活動へのモチベーションをより高めることも期待できます。

なお、入学希望者が定員を超えた場合は、従来どおり抽選により入学者を決定することとします。

(5) 入学年齢の引き下げ

◆ 入学可能年齢を現在の「60歳以上」から「55歳以上」に引下げ

【現状と課題】

現在の生涯大学校は、入学可能年齢を60歳以上としていますが、リーダーとなる人材の育成に関して、「社会で働く現役の時期から行うことが効果的である」という声が多く聞かれます。

【今後の方向性】

地域活動を実践する人材をより多く輩出するという観点から、修業年限を短縮しますが、同様の趣旨から入学可能年齢を引き下げ、より多くの人材が早い段階から地域デビューのための準備をし、地域活動へ参加できるようにします。

具体的には、現在「60歳以上」となっている入学可能年齢を「55歳以上」に引下げることとします。入学に関する門戸を広げることで、世代間交流の促進や、応募者の増加にもつなげます。

5. 運営体制の強化

(1) 卒業生の組織化とコーディネーターの配置

- ◆ 各学園に卒業生団体を組織化し、事務局を設置
- ◆ 学生と卒業生の交流や市町村との情報交換を支援するコーディネーターを配置

【現状と課題】

生涯大学校の卒業生組織としては、京葉学園等の卒業生からなる「千葉県生涯大学校卒業生学習会」（平成23年度会員数1,151名）や、東葛飾学園の卒業生からなる「柏シルバー大学院」（同会員数約700名）の大きな活動組織や、東葛松戸福社会、前林里山を守る会など県が把握したものだけでも42団体（2,680人）に上っています。

これらの活動組織は、地域の清掃、花壇の手入れ、樹木の剪定などの施設管理の支援や自治体が主催する行事の応援、あるいは小学生の登下校時の保護・誘導、高齢者の見守りなど、さまざまな形で地域活動を行っています。

一方、地域活動への参加意欲はあっても、ともに活動する仲間や場所、活動するきっかけをつかめないまま、生涯大学校で学んだ知識や経験、技能などを自宅で眠らせてしまっている卒業生も数多く存在しています。

卒業生の社会貢献を視野に入れたとき、生涯大学校の課題として、卒業生の組織の有無に地域差が大きいこと、あるいは組織同士の横のつながりが希薄であることなど、「卒業生の一体的な組織化・ネットワーク」が不十分であることがあげられます。

アンケート調査においても、地域活動への参加意向はあるものの、知識やノウハウの不足、あるいはきっかけがつかめないため、実行に踏み出せないという人が多数いることがわかりました。また、生涯大学校で学ぶうちに地域活動に興味を湧いたものの、どのように地域活動に参加できるのか情報が不足しているため、活動に参加していないとの声も多数ありました。

【今後の方向性】

このような状況を踏まえ、全ての学園で、卒業生を組織化し、卒業生は誰でも加入できるようにします。また、卒業生同士の交流や情報交換を促進

し、ネットワークを強化する役割を持つコーディネーターを配置します。コーディネーターには、生涯大学の卒業生の中から適任者を選出するなど、卒業後の活動の場としても位置付けます。

卒業生の組織とコーディネーターには、卒業生に関する情報と地域活動情報を集約させ、地域活動に参加したい人とボランティアなどを必要とする団体とをマッチングさせることで、地域活動の活性化を図ります。なお、卒業生に関する情報は、本人の承諾を得て、厳格なルールの下、取り扱うこととします。

(2) 市町村等との連携強化

- ◆ 県・市町村・学園等による運営協議会の開催
- ◆ 卒業生情報等の共有による卒業生の活動の場の確保
- ◆ 地域特性を生かしたカリキュラムの作成

【現状と課題】

学んだことを地域で生かすためには、卒業後に戻る居住地域における「活動の場や機会」が求められます。地域活動の実態やニーズを最も把握しているのは市町村（行政）であり、卒業生の多様な活動の場と機会を提供するためには市町村との連携が不可欠です。

現状、市町村には生涯大学の募集要項を配布するなど入学時の窓口として協力を得ています。

一方、卒業生の中には地元市町村で精力的に地域活動に参加している者が数多くいます。しかし、生涯大学と市町村の間で情報交換が密に行われていないため、卒業生の活動が認知されていません。このことは、生涯大学自体の認知度が向上しない要因の一つとなっています。

【今後の方向性】

この状況を改善するため、各学園に設置する卒業生組織の事務局を通して、地元自治体との連携を強化していきます。

《連携の具体的な形》

- ① 県と生涯大学校の各学園及び学園の管轄範囲の市町村等とが広く連携し、情報共有が図れるよう、運営協議会を設置し、定期的に会合を開催していくこととします。
- ② 卒業生の組織を市町村ごとにグループ化し、各グループがそれぞれの地域で活動できるような仕組みをつくりまします。
- ③ 市町村ごとの課題や地域特性を勘案したカリキュラムを学園ごとに作成・展開し、卒業生が居住する地域での円滑な活動参加につなげまします。
- ④ 卒業生の組織では卒業生名簿と活動者名簿を作成し、必要に応じて市町村等に情報提供しまします（個人情報取扱ルールを遵守）。また、市町村等からボランティア活動などを必要とする施設や個人の情報を提供するなど、互いに情報交換することで連携を図っていきまします。
- ⑤ 将来的には、各グループが主体的に自治体や公民館、社会福祉協議会などを訪問し、ボランティア活動のニーズがないか営業活動を行い、積極的に地域活動へ参画していくことも展望してまします。

（３）大学等教育機関との連携

- ◆ 県内にある大学等の教育機関との連携強化
- ◆ 大学の公開講座の活用や講師派遣の依頼等による、講座やカリキュラムの質の向上

【現状と課題】

高齢者を取り巻く環境の変化により、高齢者自身の意識・行動が多様化し、生涯大学校へ求めるニーズも多種多様となっております。これらのニーズに応えるためには、幅広い分野にわたる質の高いカリキュラムの提供が必要です。

現在、生涯大学校では、大学教師が講師となる講座を多く設けており、専門的学習が進められていますが、講師の選定に当たっては限られた人脈を通じて行われているのが実態であり、講師の固定化もみられます。

他県や他市町村運営の高齢者を対象とした生涯学習においても、地元の大学や放送大学との連携講座を設けているケースが多くみられます。連携の形も、地元で立地する大学から講師を招くことや、大学の公開講座への参加を生涯学習講座の単位（出席数）に含めている事例、大学の学生と生涯学習講座の学生が同じ研究テーマと一緒に活動を実践する事例など、多様になっています。

【今後の方向性】

生涯大学校においては、学生に質の高いカリキュラムを提供するため、多様な連携方策を取り入れることとします。大学との連携においては、協力してもらえる大学を探すことに苦慮するケースもみられることから、大学の特性や状況を踏まえて、互いにメリットのある形での連携を進めます。

《連携の具体的な形》

- ① 県内には、千葉大学を始めとする国立大学や私立大学、放送大学など多数が立地しており、これらの大学を通じた多彩な講師の派遣を検討します。
- ② 大学の公開講座の活用など、学園外へ出向いた学習の場を設け、活動範囲を広げます。
- ③ テーマによっては大学生と生涯大学校の学生が同じ空間で学習する機会を設けます。生涯大学校の学生だけでなく大学生にとっても、異世代交流による新鮮な経験が得られるというメリットがあります。

(4) 資格取得の支援

- ◆ 学生を資格取得に導く基礎的学習を実施
- ◆ 各種資格や検定等についての情報を収集・提供

【現状と課題】

生涯大学のカリキュラムを受講するだけで取得できる資格はなく、また資格取得だけを生涯大学の目的とすることは、生涯大学の目的とも異なります。

しかし、アンケート調査によると、充実を望む講座として「資格が取得できる講座」をあげる意見が、生涯大学の学生で14.2%、卒業生で12.1%となっています。また、自由意見でも「資格取得ができると思って入学したが、資格とは全く無関係の講座しかなかった」という意見が福祉科を中心に少なからずありました。

生涯大学の講座の中には、継続して学習を進めることで、公的な資格取得につながる可能性のあるものが多数あります。

地域で活動を行う上で強みになったり、学習の目標となるような検定や認定資格なども多く存在します。

【今後の方向性】

これらを踏まえ、学生を資格取得へ導くため、資格に関する概要や導入部分をカリキュラムに取り入れた基礎的な学習を実施するなど、資格取得に対する意欲が高まるよう工夫・配慮します。

各種資格やご当地検定などについて、生涯大学で情報を収集し、必要とする学生に提供していきます。これにより生涯大学での学習を通じて、さらに幅広い学習意欲や地域活動意欲の醸成にもつなげていきます。

《具体的な資格・検定例》

資格名	認位団体	概要
生涯学習 コーディネーター	(財) 社会通 信教育協会	文部科学省認定の通信教育講座修了者を対象としている。団体・サークルなどで、文化・芸術・趣味といった様々な生涯学習についての助言や指導などを行う。
生涯学習 インストラクター	(財) 社会通 信教育協会	生涯学習活動を推進・指導する人材。「生涯学習インストラクター1級・2級」の資格制度を設けている。
まちづくり コーディネーター	NPO全国生 涯学習まちづ くり協会	ネットワークを生かし、地域を活性化するまちづくりの指導者。NPO法人全国生涯学習まちづくり協会の主催する講義（聖徳大学）を受講することにより認定資格が与えられる。
地域アニ メーター	NPO全国生 涯学習まちづ くり協会	「まちづくりボランティア」の認定資格。まちづくりを学習し、まちづくりの参加者をサポートし、ネットワーク構築の役割を担うまちづくり実践者のための資格。NPO法人全国生涯学習まちづくり協会の認定講座を受講することで与えられる。
旅のもて なしプロ デューサー	NPO全国生 涯学習まちづ くり協会	旅行者の受け入れプランを立案し、接待に必要な専門的な知識とマインドを持った「旅のナビゲーター」資格。SOA（聖徳大学オープン・アカデミー）が主催する「旅のもてなしプロデューサー」講座などを受講することにより与えられる。
ちば観光 文化検定	千葉商工会議 所	千葉県の観光・文化・歴史・産業・自然等を学び、学ぶことを通して、観光振興・地域振興に資する人材育成、およびホスピタリティ（おもてなしの心）の向上を目的としている。
房総（千葉） 学検定	千葉県	千葉の風土、歴史、文化、産業、動植物、観光などを学び、広く認識してもらうことを目的に実施。地域の再生と活性化に貢献する人材や、地域の観光振興をリードする人材の育成を目指す。
健康生きが いづくりア ドバイザー	(財) 健康・ 生きがい開発 財団	中高年齢者の在職中とリタイア後における健康・生きがいづくりを企業や地域で専門的に支援するコンサルタント。財団法人 健康・生きがい開発財団が実施する養成講座受講により与えられる。
自然観察 指導員	日本自然保護 協会	自然観察会を開き、自然を自ら守り、自然を守る仲間をつくるボランティアリーダー。日本自然保護協会の自然観察指導員講習会の受講により与えられる。
森林インス トラクター	(社) 全国森 林レクリエー ション協会	森林づくりと林業、野外での活動、教育の方法、安全対策について一定レベルの知識を持ち、小・中学校の「総合的な学習」等で活動。

(5) 地域との交流

◆ 地域の保育所・幼稚園・小学校・中学校・特別支援学校等との連携

【現状と課題】

地域との交流については、卒業生の中には地域活動へ参加する動きが多数あるものの、現役の学生については、ほとんどが大学校内での活動にとどまっているのが実態です。

アンケート調査では、今後参加したい活動として「地域の子ども会や老人クラブ等におけるレクリエーション活動」とする意見が、生涯大学の学生で24.0%、卒業生で27.0%となっており、地域での交流を求める意見がそれぞれ4分の1程度ありました。

【今後の方向性】

高齢者等の生きがいつくりや地域社会との関わりを促進するため、将来を担う子どもたちとの交流機会を増やしていきます。また、市町村等の協力を得て、保育所、幼稚園、小学校、中学校、特別支援学校等と連携し、世代間の交流を実施します。

具体的には、学生が各施設を訪問し、子どもたちと遊んだり、子どもたちに教えたり、校庭の樹木の剪定や花壇の整備等を行うことで各施設への貢献を図りながら交流を進めます。

(6) 改革効果の検証・評価

◆ 改革の見直し項目を、定期的に検証・評価する体制を導入

【現状と課題】

今般、生涯大学校の改革を通じて、学部制の導入や修業年数の短縮など、設置内容や運営体制の見直しと強化を実施します。これらが、マスタープランに沿って着実に進捗しているかどうかについて、進捗状況を確認するとともに効果を検証し、その結果をもとに必要に応じて再度見直しを行うことが重要です。

【今後の方向性】

そこで、生涯大学校の学生から、3年又は5年の間隔で定期的に講座の満足度や運営体制などに関する意見等を聴取し、それらの結果を踏まえてマスタープランの見直しを行います。

地域活動の実践状況などについては、実際に活動している卒業生を対象とし、市町村ごとに把握します。

《成果指標例》

- ① 新設学部・専攻科の入学者数と卒業者数
- ② 学園、コースごとの応募倍率
- ③ 卒業生の地域活動団体数
- ④ 市町村ごとの卒業生活動団体の状況
- ⑤ 学生の生涯大学校への満足度（講座・施設・運営体制など）
- ⑥ 学生の地域活動参加意欲

なお、3年又は5年の見直しの際に、生涯大学校と市町村の連携が図れず、卒業生が市町村で活躍するといった成果がみられない地域においては、必要に応じ統廃合も視野に入れて、学園のあり方を再検討します。

(7) その他運営体制の強化

- ◆ 指定管理者制度の有効活用と施設の効率的活用
- ◆ 活動団体との連携強化
- ◆ 情報収集・発信の強化

【現状と課題】

指定管理者には、施設の適正管理だけでなく、地域活動の担い手育成を目的とした魅力的な講座を展開していくことが求められます。また、多様な講座を企画・実施し、学生の満足度や地域活動への参加者の増加が求められることから、このようなソフト面においてノウハウを持った事業者による運営が期待されます。

【今後の方向性】

生涯大学の運営に当たっては、県・生涯大学の事務局や各学園・学生等との意見交換の場を設け、より効果的・効率的な運営を図ることができるようにします。

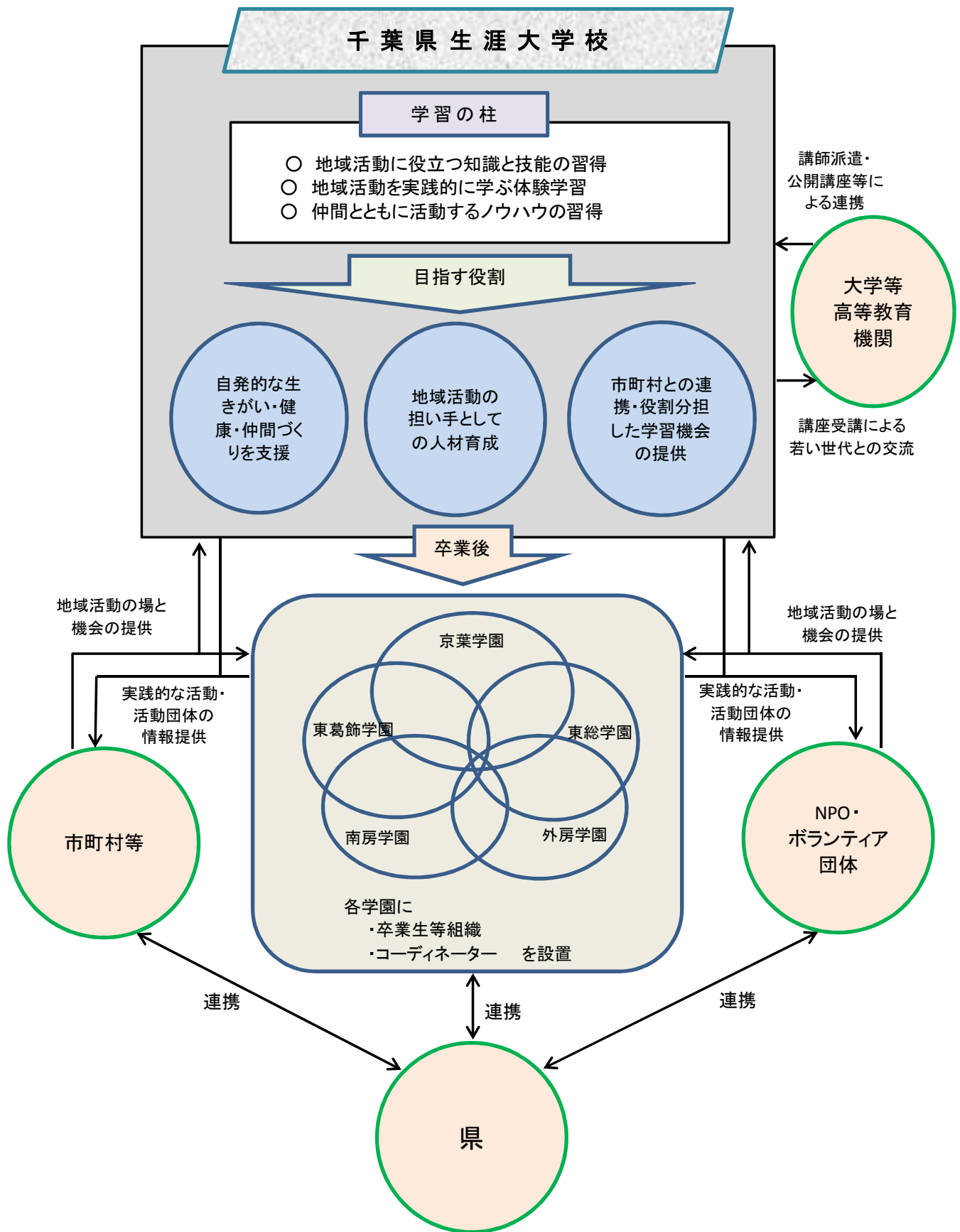
施設を効果的・効率的に活用するという観点から、空き時間については、施設を地域に開放したり、指定管理者自ら公開講座を開設するなどして有効に活用することとします。また、今後は現在よりも卒業生を組織化し、地域活動を行うことを進めるため、それらの活動拠点としても活用していくものとします。

卒業後、地域活動を行っていくためには、在学期間に、実際に活動している団体などと交流し、ネットワークを構築することが必要です。在学中にボランティア活動などの地域活動に触れ、地域活動団体との関係性を作り上げることを目指していきます。その中で、ネットワークづくりのノウハウを身に付けるだけでなく、地域活動への参加意欲を高めることができます。

例えば、実際に地域活動を行っているボランティア団体、NPO法人、社会福祉協議会担当者などが、地域活動の状況や受入先を紹介したり、勧誘活動をすることも効果的です。これにより、地域活動に参加意向のある学生に対して、卒業生の組織を通じた地域活動だけでなく、地域に密着した多様な活動の場を提供できるようになります。

生涯大学校への入学希望者に対する広報活動の一環として、また連携を図る自治体との情報交換促進のためにも、ホームページの充実に力を入れていきます。また、卒業生の地域活動の内容なども積極的に発信し、地域活動に参加するきっかけづくりにも取り組んでいきます。

《千葉県生涯大学校 イメージ図》



(8) カリキュラムの概要

【現状と課題】

現在は、全ての学科において、共通科目として、一般教養的な授業が4割を占めています。この共通科目は、各分野の入門的なことを浅く広く行っており、目的を持った体系になっていません。

【今後の方向性】

一般教養的な科目は大幅に減らし、健康づくり、福祉関連、実践活動の時間を大幅に増やし、それぞれ地域づくりを担う人材育成のための体系を持ったものにします。

ボランティアなどの地域活動を、講座の中に年間を通じて継続的に組み入れるなど、実践を多く取り入れます。

園芸コース、陶芸コースは修業年限が短縮になっても質を落とさないため、一般教養科目を減らし、園芸、陶芸の専門科目の時間を確保するものとします。

詳細な時間数、実践活動の方法、講師の選定等については、県と協議の上、指定管理者がその専門性を生かし検討します。

《カリキュラム時間割の例》

学部・コース	目的・備考	大分類	中分類	単位数		主な学習内容
				1年	2年	
地域活動学部	実習等を通じて、卒業後の活動に必要な、学生間、様々な団体等との十分なネットワークを構築する	教養科目	学校行事	約15%		入学式・卒業式等 地域社会で活動するために必要な知識に関する学習
			教 養			
	地域活動科目	健康づくり	約55%		健康管理に関する学習 (健康づくり、調理実習等)	
		福 祉				
卒業後の活動へ円滑につなげるため、地域活動の実践や実習等の実践的なカリキュラムを提供する	実践活動科目	地域活動	約30%		地域の歴史、文化を学び地域を理解する学習 及び地元のボランティア活動への参加による体験学習	
		実践活動(コース別)				
合計				74	74	
造形学部 園芸コース	園芸を通じた仲間づくり、生きがいを進めるとともに、地域活動につながる実践的なカリキュラムを提供する	教養科目	学校行事	約10%		入学式・卒業式等 健康管理に関する学習 福祉に関する学習 地元のボランティア活動への参加による体験学習
			健康づくり			
	地域活動科目	福 祉	約10%		園芸に関する基礎的な学習 (植物・栽培、土壌・肥料、病害虫)	
		地域活動				
仲間と共に地域活動について学ぶ学生を受け入れるため、卒業後、地域活動学部に入学を可能とする	専門科目	園芸基礎	約80%		園芸における栽培管理 (花、野菜・庭木の種蒔き、植え替え、整枝剪定等)	
		園芸技術				
合計				74		
造形学部 陶芸コース	陶芸を通じた仲間づくり、生きがいを進めるとともに、地域活動につながる実践的なカリキュラムを提供する	教養科目	学校行事	約5%		入学式・卒業式等 健康管理に関する学習 福祉に関する学習 地元のボランティア活動への参加による体験学習
			健康づくり			
	地域活動科目	福 祉	約15%		陶磁器に関する基礎的な学習 (歴史・原料・釉薬・焼成・粘土・釜・道具等)	
		地域活動				
仲間と共に地域活動について学ぶ学生を受け入れるため、卒業後、地域活動学部に入学を可能とする	専門科目	陶磁器基礎	約80%		低火度焼成(茶碗・素焼・釉がけ・焼成作業) 高火度焼成(素焼・絵付・釉がけ・石膏型による成形・高火度釉の調合・装飾技法・ロクロの利用等)	
		低火度焼成				
合計				148		
地域活動専攻科	自ら地域活動を企画・実践することができ、指導者として活躍できる知識や実践の学習を提供する	教養科目	学校行事	約15%		入学式・卒業式等 指導者としての活動に必要な知識に関する基礎的な学習
			教 養			
	入学者は、地域活動学部の卒業生や市町村推薦者を対象とし京葉学園のみに設置する	専攻科目	地域活動の運営技術	約85%		指導者として必要な地域活動運営技術に関する学習 自ら講演会等を企画・実践することによる、より高度な指導者として必要な知識に関する学習
実践活動(課題別)						
合計				74		